

新環境クリーンセンター併設「環境学習施設」の  
市民だけの意見交換会（参加者発言録）

日 時：2018/3/31（土）19：00～21：00

場 所：フィランセ西館 3F 男女共同参画センター団体研修室

出席者：28人]（詳細別紙）

<内容>

1. 出席者自己紹介

2. これまでの経緯

1) 本会開催の背景・経緯（坂本アドバイザー）

- 私 坂本は、2015年頃から豊田市の環境学習施設「エコット」の一員として、富士市の皆さんとお付き合いが始まった。
- 2016年、富士市では、「3R 協働プラットホーム」を立ち上げ、その運営を担う人が出てくることを期待して、東海道吉原宿に「アンケートを取る」「会議を行う」等の事業を委託し、活動のスタートを切った。
- しかし、2017年4月以降は諸般の事情でその後の活動がうまく進まない状況となっていた。
- 2017年末、富士市から、建物の基本設計について、市民との意見交換をしたいので、その場の進行役の要請とその後の運営主体をどうするかとの相談を受けた。
- 2回の会議を行ってみて、市或いはプラントメーカーの説明に対して、市民が意見を言う状況の中で、概ね市民からの意見は取り入れられ建物の建設は進むであろうと想定される。
- しかし、運営をどうするかについての進展はなかなか進む気配がない。オープンまで2年、指定管理者決定まで1年となり、市民が主体の施設を作りたいという状況にはなってきたはいるが、市或いはプラントメーカーに対し、市民側がバラバラで意見を言う状況から、市民側で意見をまとめて提案していく状況にしていこうということで今回の「市民だけの意見交換会」を開催することとした。

2) 市と地元との協定書締結から現在に至る経緯（小野房雄）

- 2013年12月、市と地元とで「新環境クリーンセンターの建設に関する協定書」が締結され、その中に、本体の焼却炉及びそれに併設される環境学習・環境啓発施設と余熱利用施設の3施設の建設が明記されていた。
- 協定書に付属する文書として、環境学習・環境啓発施設でどんなことをやるかということに記載した「環境学習・環境啓発計画」がある。
- この「環境学習・環境啓発計画」は、富士市のごみを考える会の地元会員を主体とした地元メンバーが事業プログラム集として作成、要望書という形で提案したものをベースに受注側の東亜テクノロジーが作成したものである。これにより、環境学習・環境啓発施設の大枠はでき、その後はこれに基づき市が動いていると考えている。
- さらに、この環境学習・環境啓発施設の詳細な詰めは、川崎重工の下請けのクリーン工房が担当、市民との話し合いを行うことになっている。

- クリーン工房からは、2017年8月頃から富士市のごみを考える会と詳細を詰めていきたいとの話が持ち込まれてはいるが、その後は何の進展もなく現在に至っている。クリーン工房がもう少し表に出てきてくれれば、細かい話ができるのだから、なかなか出てこないという状況にある。
- また、市からもその後は特段のアプローチもなく、最近の地元との交渉の場でもこの件の話は出てこない状況にある。
- そういう意味で、環境学習・環境啓発施設の件は、事業プログラム集の提案書を出した時点でとん挫しており、その後の進展はない。

### 3) 坂本さんコメント

- 地元が提案した事業プログラム集が基本計画となり、プロポーザルを経て川崎重工が落札、この事業プログラムを実施するための施設の建設計画は進んでいる。
- 一方、その事業プログラムを「誰が、どうやってやるか」については具体化されていないのが現状で、それを運営する人達が主体的に作り上げていった方が良いのではないかというのが私の考えである。
- プラントメーカーが全部を作りこんで発注者に引き渡し、それを運営のみを委託されたところが運営していくという通常の形ではなく、市民が主体の施設としてスタートするのであれば、当初すべての事業プログラムを運営するのは無理としても、その一部でも良いから市民が主体となってみんなで運営してスタートできれば良いなあと思っている。

## 3. 意見交換

Q：提案されたと言われる事業プログラム集とは、どんなものですか？（9:40）

A：この事業プログラム集は、富士市のごみを考える会のHPに掲載してありますが、ご存じない方はどのくらいいらっしゃいますか？

〈かなりの方が知らないということで挙手〉

### 4) 坂本さんコメント

- そういことですね。私は仕様書でタイトル程度は承知していますが、中身の詳細までは確認していません。HPに掲載されているということですが、今回は、そこを勉強しようという提案となれば、それはそれで良いと思いますが、今日はそういう結論は求めずに行きたいと思います。
- このような判らない状態で市民が集まって市或いはプラントメーカーの話を聞いて意見を言う、ここで合意されたものがなにもなく、エコづくりの会で合意したものが仕様書になって、その事業プログラムをベースにやってみようという事ですが、判らない人たちがこれから関心をもつていただけるように進めて行ってみようということです。

### 5) 時田コメント

- こちらからご参加いただきたいとしてお声をかけさせていただいた方々は、我々が知りうる範囲において、この事業プログラムの中に関連するものがある方々です。この事業プログラムは、ごみ関連ばかりではないのです。

6) 参加者発言

- その内容が知りたいということです。

7) 小野さんコメント

- コンサルが作成した基本計画は公文書になってはいるが市側はそれを公表していない。地元の我々は、通常の交渉の場があるので、よく知ってはいるが、建物との関連もあるので、その中身が実現できるか細かく詰めていきたいと考えている。ところがそこから先がなかなか進まない。例えば、エコクッキングのための調理室をどうするか、竹細工、裂き織りをやる実習室をどうするか、環境映画を見るところをどうするか、・・・こういうことが設計図の中にあるので私たちは今までそこを詰めていきたいと思っているのですが、行政の方が資料をオープンしないのでどうにもならない。

8) 坂本さんコメント

- 今日は行政側への意見をたくさん言っていただいてもかまいませんが、今はプラントメーカーが決まり、建物の設計図もでき、詳細設計に入っていく段階になってきています。例えば、屋外に置くビオトープが計画されています。ビオトープについては図面を引くのはもっと先のことなので、今ビオトープのことを言われても困ります。
- 行政の計画の中の段階と私達の意見交換の段階は必ずしも一致しているのではないので、ビオトープに関心があるなら、最初の計画作りから始められる。
- 行政から投げかけられて始めるのではなく、関心のある方々が集まって話し合いを進めていけたらと良いなと思っているし、行政にいつまでに何を出してほしいと言われているわけでもない。
- エコづくりの会も自分たちで「こういう施設にしてほしい」と提案し、提案されたものが採用されたので、運営する人達たちと相談してやって行きましょうということです。

9) 小野さんコメント

- ビオトープについては、付帯施設全体として平屋の建物が計画されていますが、敷地が広いので建物の南側に畑、東側に池や森を作るといった提案をしています。それを具体的にどう作るか皆さんからお知恵を拝借出来れば提案はさらに膨らんでくるので是非参加していただいて中身の充実化を図っていただきたいと思います。

10) 時田コメント

- 今はこのような状況です。内容が良くお判りでない方もいらっしゃるのですが、これからどうしていくのかよいかの意見交換をした方が前向きだと思います。

11) 坂本さんコメント

- もう少し深掘しようという提案ですが、市が作った案もあるので、それらを踏まえた上で、これからどうしたらよいかという話に入っていきたいと考えています。
- 今回の件以外に市役所と一緒に仕事をした方はいらっしゃいますか？市役所との仕事仕方というのは、民間の仕事とはちょっと異なり、独特のものがあるようです。そういうことを理解した上で、進めていく必要があると思っています。

12) 参加者質問

- 先程事業プログラムのことが出てきましたが、まずはその事業プログラムがどんなものであるか知らないと話が始まらないと思いますが？

13) 時田回答

- HP で公開していますが、この場で説明せよとの総意ならすぐにでもやりますよ。

14) 参加者意見

- 前回初めてこの会合に参加させていただきましたが、紹介された施設、すごいものができるんだなと驚いています。

私達が知らない間に行政が知恵を絞ってやってくださるということはよくわかるが、例えば地元においても、焼却場がああたりにできるんだなと想像はつくが、現地へ足を運んだこともない。実際、現地を見ないと実感は沸かない。今、意見交換会でここに集まっているが、まず初めに市側から状況説明をした頂いて、そこからスタートするという方が前に進めやすいと思います。

15) 坂本さんコメント

- 現地を見学したいということですか？  
現地は今整地工事をやっているという状況です。見学会をしたいという合意となれば、市役所に提案し実施することはできます。
- 事業プログラムの詳細を知りたいということなら、みんなで決めてやればよい。それを市がやらなくてはならないというのではなく、運営はみんなで担っていくというのなら、市民の皆さんが自主的にやってもよいということです。

16) 時田コメント

- 事業プログラムの詳細を知りたいというのなら、私達ごみを考える会でお受けしますよ。

17) 坂本さんコメント

- こういことは予算も人に必要となりますし、事務局がないと成り立ちませんね。

18) 小野さんコメント

- 私達は地元として交渉してきていましたので、早めに内容を知ることが出来ましたので、そのためには予算措置も必要で、またそれをオープンにして対応していくのかよいと進言してきています。
- この会は、2016年から開催されているにもかかわらず、同じような説明を繰り返している。中身をもっと濃くしていかないと進展はしない。入り口論を何回やってもしょうがない。中身に入ればもっといろいろな意見が出て話が詰まってくると思うのだが、いつも入り口論で終わってしまう。

Q：そういうことが分かっていないということではないですか？

A：基本計画の中に事業プログラムの名称と簡単な内容は記載されています。

Q：それは市が作ったものですか、市民が作ったものですか

A：市民が作ったものを市が採用し基本計画としたものです。

Q：市民が提案したものが全部採用されているんですか？

A：全部が採用されたとは思っていません。地元の市民が主体となって作ったものを市が採用して基本計画となっていますが、基本計画が公開されていないので市民の提

案がすべて採用されているかどうかわかっていないというのが現状です。

A：市に提案書を出したらコンサルがチェックして、なかなか中身が良い、全国のものと比較してもよいということでコンサルの案として市に出して、それを市が基本計画としたということのようです。

#### 19) 参加者意見

Q：環境アセスメントの結果はありましたか？

A：ありましたよ。

- その中に絶滅危惧種とかがあるわけですが、今既に着工されているというのでその点の問題もないようです。そうなりますと、市の方はほとんど手を掛けなくてもよくなってるので手を引いてくる。工事着工で環境アセスがすみ設置届が出ると、もう市の方もやる事が無くなってしまふ。
- 今やらなくてはならないことは、プラントメーカーと事業プログラムに対応するクリーン工房ですが、これは市が窓口になって市民の声を聞いて市が主体となって会議を進めていかないと絶対にできないことだと思います。

#### 20) 坂本さんコメント

- 従来の市の仕事のやり方だと、もう発注しているので完成検査まで特段やることはない。住民の意見は事前に聞いていると言えばそれまでです。ところが今回は、市民が主体の施設をオープンしようということです。それを実現するのにどうしたらよいかということが課題となっています。
- 絶滅危惧種のことにはちょっとわかりませんが、建物とかその中身のことは、市もこれから作りこんでいこうという気持ちは十分持っています。

#### 21) 参加者質問

- そういうことをやる事務局がどこになるか決まっていないなさるんですね？

#### 22) 坂本さん回答

A：決まっていません。

- オープンした時は、クリーン工房が運営を担うことはほぼ決まっているんですが、オープンまでだれがどのように動くかは決まっていないなさるというのが実態です。
- 市は3年も前から、事務局の必要性ということを知っていましたが、どういう仕事が発生し、どういう形でお金を付けたらよいかわからなかつたようです。
- 昨年末急遽会議の進行役としてお金を付けていただきましたので、こうして富士市に来ています。こういう人がいないとこの場も作れないし、会議も市だけでは進められないわけですので、事務局の必要性は市も認識しているわけです。

#### 23) 参加者意見

- ごみを考える会の人達が事業プログラム案を出されて、市内の関連団体に協力をいただきたいということですね。  
私たちは、どんな案が出ていて何を協力したらよいかを知りたいということです。

#### 24) 小野さんコメント

- 市が基本計画を作り、工事を発注して進めているわけです。市側はハード面のことは出来るわけですが、運営を含めたソフト面をどうやってやってゆくかを市民参加の形でやっていくというのが当初からの目的としていました。

そこがうまくいっていないということです。

- これを残された2年間でうまくやっていきたい。

事務局はごみを考える会がやるという話もありますが、何分ごみを考える会は年寄りばかりですので、若い人たちが事務局を担っていただけたらいいなあと思っている次第です。

#### 25) 時田コメント

- 今、全事業プログラム案を説明せよと言われればできますが、それは次の課題でしょうから、いつ、なにを、だれが、どういうふうにするか、皆さんのご意見をお出しただければ、その中で私たちごみを考える会としてできることはやりますよ。

それでは、事業プログラム案の代表的なものを紹介していただけますでしょうか。

#### 4. ごみを考える会（熊谷氏、小野氏）から代表的なものの概要を説明。

- 説明の中間の過程で事業プログラムと建物レイアウトの関連についての話に言及したところ、それではよくわからないという指摘が出た。ここで、第1回会合で配布された施設の平面図・動線図をお持ちの方はそれを見ながら聞いてくださいとなったが、半分程度の人しかもっていなかったため、この点はあまり細かいことにまで踏み込まないで、建物と事業プログラムとの関連は次回以降にしましょうよということになった。
- いろいろ細かいことはあるが、まずは何をやりたいかをまず出して順にやっていくようにしましょうよ。

#### 26) 参加者からのコメント

- 要は今の時点、この施設でやりたいということは提案されていて、大まかには採用されてはいるが、修正を加えないといけないところもある。建物の基本設計はできてはいるが中身についてはまだ決まっていないところが多くある、そういうことです。

#### 27) 坂本さんコメント

- そういうことです。

#### 5. 配布資料の「運営管理の方法（市の考え方）について」の説明

##### 28) ここで、坂本さんから、

- このA3判の資料は、市が作ったもので、今後市としては運営計画を作っていく必要があります。4月以降、3回くらいの意見交換会を行って計画書を作りたいと考えています。そしてその先、行政上の要綱を作成、議会承認を経て、指定管理者の決定手続きに入っていく段階での大まかな考え方を示したものですとの前置きがあり、配布資料の「運営管理の方法（市の考え方）について」の説明に入る。

＜配布資料の「運営管理の方法（市の考え方）について」の説明＞

- 本施設は市役所が作る公共施設となるので、市役所の仕事に沿った物事の進め方が主流となりますが、市民なりのフットワークとか考え方とかを皆さんのネットワークで違うやり方もあると思います。それを市役所のやり方にうまく合わせていけば、実現できることはたくさんあると思うので、これは準備会だということではなく、これから来年度の活動計画を作る過程で少しずつメンバーを決めて組織化して、一つのチームにまとめ上げていくことになると思います。

## 6. 意見交換

### 29) 参加者から

- 市の方では、30年度の予算措置を準備しているということはないのですか？

### 30) 坂本さん回答

- 運営計画を作るということで、3回分の意見交換会の予算は準備されているとのことで、私がアドバイザーとして来ることになっています。

### 31) 参加者から

- それ以外はどうですか？

### 32) 坂本さん回答

- それ以外は取っていないようです。予算措置というのは、前年の夏ごろに申請することになりますので、その時点ではこの先どうなるかよく判らなかつたようです。予算がない中でどうするか、予算を取るのにどうするか、そこらがこの会の知恵の出どころだと思います。

### 33) 参加者から

- エコットはスタートしてから何年くらいで軌道に乗せることが出来ましたか？

### 34) 坂本さん回答

- エコットは2007年にオープンし、その時、30人位のボランティアと8人のスタッフがいました。  
オープン年度の来場者は16,000人、14年経った2017年には30,000人の来場者となりました。
- 当時、エコットができる前に市役所の職員が環境省へ出す資料とか議会に報告するとかで作った目標が、年間30,000人だったので、この目標を10年かけて達成したことになります。
- 最初30人のボランティアでスタートしましたが、その後毎年10人位ずつボランティア育成講座を行い、延べ人数では120人位の受講生がいて、無事登録まで行った方は最後の年で70人位になりました。

### 35) 参加者から

- そのボランティア受講生というのは、市民一般から募集して、研修を行い、資格を得るということですか？

### 36) 坂本さん回答

- はい、そういうことです。
- 最初の30人は、公募でした。私が印象に残っているのは、「展示解説ボランティア育成講座」なんて固く表現するのではなく、展示を解説するボランティア活動だと言った方が判り易いということ。

- 募集形態は「口コミ」が主流、若いお母さんもいましたが、高齢者の口コミの方が早いようで、ある高齢者講座の受講生が仲間を連れてみんなで来てくれたという例もありました。
- しかし、主体は高齢者となりますので、年を追うごとに高齢化が進み、若い人をどう確保するかが課題でした。

### 37) 参加者から

- 講座はいつ開いたのですか？

### 38) 坂本さん回答

- 時期的には10月位から、時間的には平日の昼間で施設のオープンの時間帯でした。
- 受講生は、リタイアした人か専業主婦で、一時土日だけのボランティアという人もいましたが、今は70人位のボランティアが確保されていますので、土日だけの人はいません。

### 39) 富士自然観察の会 山田先生のご発言

- 私は今回で3回目ですが、お話を伺って、なるほどなあと思いつつ、それではうちの会はどんなことが出来るかなあ考える一方で、私の会では別に本来の会のやることがたくさんあるので、どうしたらよいかと思悩んでいます。
- 例えば我々の会でやれるとしたら、話し合いの中だけで考えるとしたら、ビオトープのこと、自然に関連する展示物のこと、料理教室でも野草を食べることなんかならできると思います。
- しかし、それにしてもまだまだ人が足りない。富士自然観察の会は、会員が20名位はいますが、会本来の活動も行っているのでも、年3回位話し合ってたくらいでよい案が出るかというとなかなか難しい。
- 本施設は市民参加だから、もっと我々もここにいる方々も周囲の方々にお願いして、もっとたくさんの人に参加していただくようにしていかないと、これから先ずっと続けていくことが出来ないと思います。
- 給料をいただいてやるわけではなく、ボランティアとしてやらなければならないので、ただここに集まって意見を出し合うだけだと、集まった人がバラバラのような状態で、何回やっても同じような話し合いになってしまうと思う。
- ここに参加している人たちが、市の人達とか言い出しっぺの人を責めるのではなく、一人一人が参加者を増やすために行動し、その行動行方に当たっては相手にどんなことをやってほしいのかを伝えていかないとだめだと思う。そのためには、事業プログラムのどういうことをやってもらいたいのか、何をやる、どういうことを考える人が必要かをこの会合で話し合っていく必要があると思う。
- ただ意見を出し合うということになるとかえって話が広がり過ぎてまとまりがつかなくなってしまう恐れがある。
- 建物は既にほぼ固まってしまっているのでも、いろいろな意見を言うもの無理だろう。
- 建物の中でどんなものを展示するか、今ここで意見を出せなくとも次回には意見が出せそうな人に参加してもらおうようにすることもよいのではないか。



40) 加者から

- 例えば、オープニングの時、どんなことをしたいのか、オープニングの時のブースはどんなものをどれくらい作って来場者を迎えたらいいか、そんなことを考えてみるなんてことはどうでしょうか？

41) 山田先生

- そうですね、オープニングの時どんなことをやろうかということで意見を出してみるなんてことはいいと思います。

42) 小野さん発言

- 今までの地元での交渉の中で感じていることは、若い人たちで事務局体制を作ってくればその周りを囲む年寄りの経験者は一杯いる。中心になる人たちが固まればいろいろな要望が出てくると思いますが、中心になる人がなかなか出てこない。私達ごみを考える会は今引いていますから、そこを何とかしてほしいと思っています。

43) 富士自然観察の会 長谷川氏ご意見

- 山田先生のご意見を聞いて、私は今県のふじさん地球環境史ミュージアムに2年間くらいボランティアとしてかかわってきていますが、この展示解説員の女性は皆派遣で全くの素人の方なんです。私達周囲の人にいろいろ聞いて2年間やってきてある程度できる段階になってきていると思っています。
- 大事なことはこの施設の基本理念は何なんなのでしょうね。この施設を通して、市民にどんなことを知らせ、どんなことをやってほしいか、そういう理念をこの会で決めていったらどうでしょうか。
- 一本美紀の部分を決めて目指すところは何だとしておかないと、じゃあどうする間っても、なかなか先には進められないのではないですかね。

44) 小野さん発言

- 理念は基本計画の中で歌われていて、それに基づいて設定されたものに沿って今動いているんですよ。

45) 坂本さん発言

- それがどういう言葉で歌われているのか、もう一度確認してみる必要はあるかもしれませんが。それを運営を担う人たちで自分たちの言葉で置き換え直すのは大事だと思う。

46) 時田発言

- そこまで引きずり戻すなら戻しても良いですが、我々ごみを考える会は取り敢えず引いた。いまそんなことを議論している場合ではないよという意見もあるが一番最初からやり直すということならそれでもいいですよ。

47) 坂本さん発言

- 振り出しに戻すということではありません。今まで積み上げてきたものがある。それを皆で共有した方が良くはないかと言っているのですよ。

48) 時田発言

- それならそれでそこから（皆が情報を共有する）行きましようよ。

49) 参加者発言

- 先程坂本さんが紹介したボランティア講座、まず、この講座をやらなければなりません。その講座の講師の選択、依頼などはどうしていたんですか？

50) 坂本さん回答

- 当時第1期生は、建物ができる前からボランティア育成を始めました。オープンする時の人材ですからオープンまでに必要となります。
- 当時、たまたまメンバーの中にトヨタ自工の経営するトヨタの森という里山学習施設がありまして、その里山のインタープリターをやっていたご夫妻がいらっしゃいました。その人たちと一緒に作りました。その時は講師という方はほとんどいなかったと思っています。講演を聞いたり、プログラムを自分たちで作ったり、古い工場を見学したりしました。
- 今だと、地球温暖化の講師を誰にしよう、おもてなしを勉強するのに松坂屋の支店長と相談して講師を紹介してもらったり、そういうことも含め皆で作っていくとよいと思います。

51) 参加者発言

- 先程出た理念を今まで積み上げてきた中で私たちの言葉に書き直し表現するとどうということになるのでしょうか？

52) 時田回答

- それでは市との協約書の冒頭でも掲げることとしますか。

53) 参加者発言

- それでも良いですから結果を聞かしていただきたいです。

54) 時田回答

- 理念、これはあくまで行政側が掲げたものです。

55) 参加者発言

- 別に出されているわけではないのですか？

56) 時田回答

- 地元と締結した協定書というものの中に新環境クリーンセンターを作るという基本構想があります。そこで歌われているということです。

57) 小野氏補足

- 環境クリーンセンターを作るということは、環境省から補助金がもらえる、補助金をもらうためには環境啓発施設も作らなければならない、ということは環境省の理念に沿った施設を作る必要があり、環境省の理念が市に降りてきて、市の理念として市民参加型となっています。
- 市民参加型として作る施設の中に市民が意見を言ってどれだけ取り入れられて市民の思いを膨らますことが出来るかがポイントとなりますね。
- そういう点では、もう一度理念に立ち返って議論しなければならないとは思いますが。

## 記録者注：環境啓発施設の理念について

富士市新環境クリーンセンターの建設に関する協定書第 14 条に基づく「真環境クリーンセンター環境学習・環境啓発計画」の中で、リサイクルセンター（修理・再生棟）の役割欄に以下のような記載がある。

「新環境クリーンセンターにおけるリサイクルセンター（修理・再生棟）は、ごみを再生し、再利用していく 3 R（リデュース、リユース、リサイクル）の工夫を発信し、市民、企業、行政が共同して環境問題に取り組むための拠点として、富士市の循環型社会、低炭素型社会形成を支える市民を育成するものとします」

とある。これがこの施設の理念と考えるべきか？

### 58) 参加者発言

- 先程から、積み上げてきたものを引き戻すと言っているのは、何かあるんですか？

### 59) 時田回答

- 引き戻すということではありません。我々はこの件に関しては、ある程度皆さんより前にいる（先に進んでいる）、皆さんは後から参画してきたということで、少し後ろにいる。そういうことで、皆さんの知見レベルまで引き戻さないと話のレベルが合わないのですかねと言っているだけですよ。

### 60) 参加者発言

- 今ここにきて理念というものが環境省から降りてきていると聞いたんですが。

### 61) 時田回答

- 地元の人達は、平成 24 年から 25 年位をピークにこの件の検討をはじめ、今に至っているということです。あまり我々が発言すると坂本さんから叱られますので引いています。皆さんがこんなことを知りたいと言ってくれば、それを説明させていただくことはやぶさかではありません。どうせ、我々だけではこの施設は運営できないとも思っていますから、次の世代に委ね、特に若い方に声を掛けさせていただきました。
- 我々は、世の中も見えています。

### 62) 坂本さんコメント

- 時田さんは、どうせ自分たちだけではできないからいろいろな人に声をかけた。その人たちがこの施設で活躍できる事業プログラムをイメージしながら声をかけてきたと言っています。

### 63) 参加者発言

- そのための事務局がないのですね。そのため皆がバラバラになっている。この場所をコミュニティーの場所にする、それをデザインしていかなければいけないが、講師やエキスパートの方々が参加してくる土台がないままこの会が開催されている。
- その土台がないとこれだけの各種の多様な知識を持った方々をマネジメントしていくことが出来ない。もう取りまとめていかないと時期を失することになる。
- 事務局の仕事を担う人がいないと話がまとまっていけないし、事業プログラムをそのまま提供すれば、運営できるかということそうではなく、そこでの人回しとかの技術が必要となると思いますが、そこをやる人がいない。たとえ環境を知らなくても、その技術を持っていれば、そういったものを担う人っているんじゃないですかね？

64) 時田一言

- そういう人が必ずいると期待しています

65) 山田氏発言

- 市は目標、理念を掲げているが、環境をよくするというのが大目標です。環境学習をする施設ができるんだから、環境をよくするために何ができるのか、例えば、ごみがたくさんあればうまく焼却する方法だとか、料理で生ごみをなるべく出さない料理法だとか、こういうものならここでの事業プログラムとなりうると思います
- 理念については戻って議論する必要はないと思いますが、確認しておくことは大切だと思います。

66) 参加者発言

- 理念はあるとして、環境学習施設をどういうものにしたいかみんなで決めておかないといけないと思います。

67) 参加者発言

- このような状態で進めて行くと、1回目、2回目、3回目とまた同じようになってしまう。分科会のようなものを作って個別にテーマごとに集まって、あるグループではこういう施設ができる、地元だけの参加にするのか、富士市中の人が集まっていただけの施設にするのか、環境のための勉強をしたいのか、そういう大きなテーマを出して、どういう施設にしたいのかをまずみんなでグループごとに意見を出し合って、この団体はこれに対応しようとか、子育て・子供関係はこのグループ、家具関係はここ、ある程度テーマ毎に集まって意見を出して決めていかないと何回やっても同じこと。皆さん意見を出しただけで終わってしまう。そんな会合では前に進まないと思う。

68) 参加者発言

- 自分がどの段階からどういうふうに関われるかという点では、各人異なっていると思う。例えば、事務局の人材として、あるいは講師と期待されて呼ばれている人等々、この点でも温度差があると思う。

69) 時田コメント

- ぼつぼつ終了の時間です。必要最小限のことの取りまとめに入った方が良いでしょう。

70) 小野さんコメント

- 地元の協議会での市との交渉は、大略月1回程度の頻度で行われています。これくらいやらないと意思の疎通ができないということだと思います。その意味では年3回の会議とは少ないと思います。

71) 坂本さん回答

- 前半3回ということです。後半はまた別に考えるということです。

72) 時田質問

- 次回は、いつごろ、なにと何をやりましょうかね。そのくらいは決めておきましょうよ。

73) 坂本さん回答

- 市は、スケジュール表での第1回目の会合の日時の候補を出してもらえるといいなあと書いていました。そしてそのとき何をやるかという、市は運営についての話をしたいと書いていましたので、前半はそれとして、後半はこの施設で何をしたいか、理念をどう作るのかの意見交換をするのが一つ、事業プログラムについて勉強するのも一つ

74) 小野さん要望

- まず、基本計画を市から説明していただきたいと思います。

75) 坂本さんコメント

- 手元にある資料で説明すると、環境啓発施設の基本目標は、環境に関心のある実践する市民の育成とある。これが市が作成した理念に当たるものだと思います。これは私達の言葉でしょうか？

76) 小野さんコメント

- もっと細かい事業プログラムと共に記載されている冊子がありますよ。
- 先日の川崎重工が事業プログラムを説明しましたが、あれを具体的に文章にしたものがあるはず。それをオープンにしてみんなに説明した頂きたいです。

77) 参加者意見

- 小野さんの意見に近いですが、私は今回が初めてで何もわからないのですが、地元では事業プログラム案を出してある建物もほぼ決まっている展示物も決まっている（展示物は決まっていますが提案はしてあります）そういうことが分からない状態で皆が意見を言い合ったらまとまるわけありませんよ。今日が顔合わせというならそれでよいんですが。
- 実際、いまどういう状況にあるのか、判っている人もいるが、私を含めかなりの人が解っていないと思います。

78) 小野さんコメント

- 先日川崎重工が「わくわくスタディー」という事業プログラムをあげましたが、その背景にはかなりの文章が付随しています。それをみんなに説明していただくというのはどうですか。

79) 参加者意見

- 今いろいろな意見が出てきていますが、それでは次回は初めに戻って内容を確認して取り掛かるのはいいんですが、私たちがメンバーで「どんな施設を作ったらよいか」の意見を持ち寄り、それを基に意見の集約を行って、そこからスタートというのはどうですか。

80) 山田先生意見

- 分科会を作ることも大事ですが、分科会を作る前にどんなことをやるかをしっかりと知ったうえでないと分科会も作れないのではないですか。
- 今日初めて参加した人どのくらいいますか？  
そうですか、半分は初めてですか。次回だって初めての人がもっと増えるかもしれません。あんな会合ならもう行かないなんて人も出るかもしれません。また、同じようになってしまうことも考えられます。

81) 坂本さんコメント

- よく言われるのは、決める場合は少人数、拡げる場合は多人数。このさじ加減が難しい。分科会化する前に共通的なものがないと分科会もできてこない。
- エコットでは、1年で68回、前半〇〇、後半△△という場合は、2回とカウントします。ほぼ毎週となります。その時は事務局は必ず出る。メンバーは関心のある人。そういう場の設定をほぼみんな決めていかないと、あっちはあっち、こっちはこっちとバラバラになってしまう。共通する情報を流す人がいないと前に進まないのでも事務局は必要だが、私は今は担えないのでこちらの人で担える人が出てくるというなと思っています。

82) 山田先生意見

- ただそのためには、なにをやるかそれが出ているなら箇条書きにでもして、印刷して配ってくださいよ。どういう分科会に分けたらよいかを考えてきてもらって、次には来てくださいねと言ってやらないとだめだと思いますよ。

83) 坂本さんコメント

- 次は市が設定する30年度第1回目の会議にしたい。どんな時間帯の設定が良いかも決めたい。その時には、今までの経緯を紹介することから始めたい。

84) 小野さん質問

- 文章は市から出していただけるんですね。

85) 坂本さん回答

- もちろんです。

86) 熊谷さん質問

- 次回は市も参加するんですね。

87) 坂本さん回答

- もちろんです。先に実施しました施設の基本設計等の説明会をやりましたよね。あのようなものを、4、5、6月か、5、6、7月に計3回やりたいということです。

88) 時田発言

- もしそうだったら、その前に事業プログラムを皆さんに説明する機会を作ったらどうですか。

89) 坂本さん回答

- でも、市の人には説明できないんじゃないですか。相談してみます。

90) 時田発言

- いずれにしても、事前に参加者のレベルを合わせておくことは必要だと思います。

91) 坂本さん回答

- そうですね。

92) 時田発言

- やはりこのままだと話が合わないですよ。基本的な今までの流れ、どんなことが出来るのか、これらをご承知していただいた上で市のお話を聞いていただかないと市のお話を理解できない方が出てしまいます。

93) 坂本さん発言

- それでは、次回についてはそれらのことも含め市と相談したいと思います。
- 設定したい時間帯の希望を確認したいと思います。

＜平日の夜、19時からが総意＞

- この要件で市役所及び発注先との日程調整を行って、平成 30 年度のスタートにしたいと思います。

94) 小野さん発言

- ごみを考える会の理事長がクリーン工房にもっと説明をしてもらいたいと言っていましたのでお伝えしておきます。

95) 坂本さんコメント

- 市の人から、この場にクリーン工房の人も呼んだらどうかとの提案がありました。今回は市民だけということでお断りしました。
- 今回の会議は私が勝手に呼びかけました会議ですので結論はありませんが次の会議のヒントを私が頂いたという程度にとどめておいていただきたい。これから分科会が必要だとか、事務局組織が必要だとか、それはこれから皆さんと今日の議論を踏まえたうえで、次に進めていきたいと思っています。
- 私の 10 年、15 年の経験が皆様のためになるなら富士市に出かけてくることは厭いませんので、今後ともよろしくお願ひします。

96) 時田発言

- ごみを考える会の HP に、今までの会議での配布資料、事業プログラム集、全国にあるこの種の施設の紹介記事、我々が先進施設を見学した時の見学記等を掲載してありますので、予備知識として是非ご覧いただければと思います。

配布資料：新環境クリーンセンター併設「環境学習施設」の市民だけの意見交換会開催チラシ  
運営管理の方法（市の考え方）について（第 2 回会議でも配布）  
富士市新環境クリーンセンター勸業学習施設 第 2 回意見交換会アンケート（抜粋）

以上